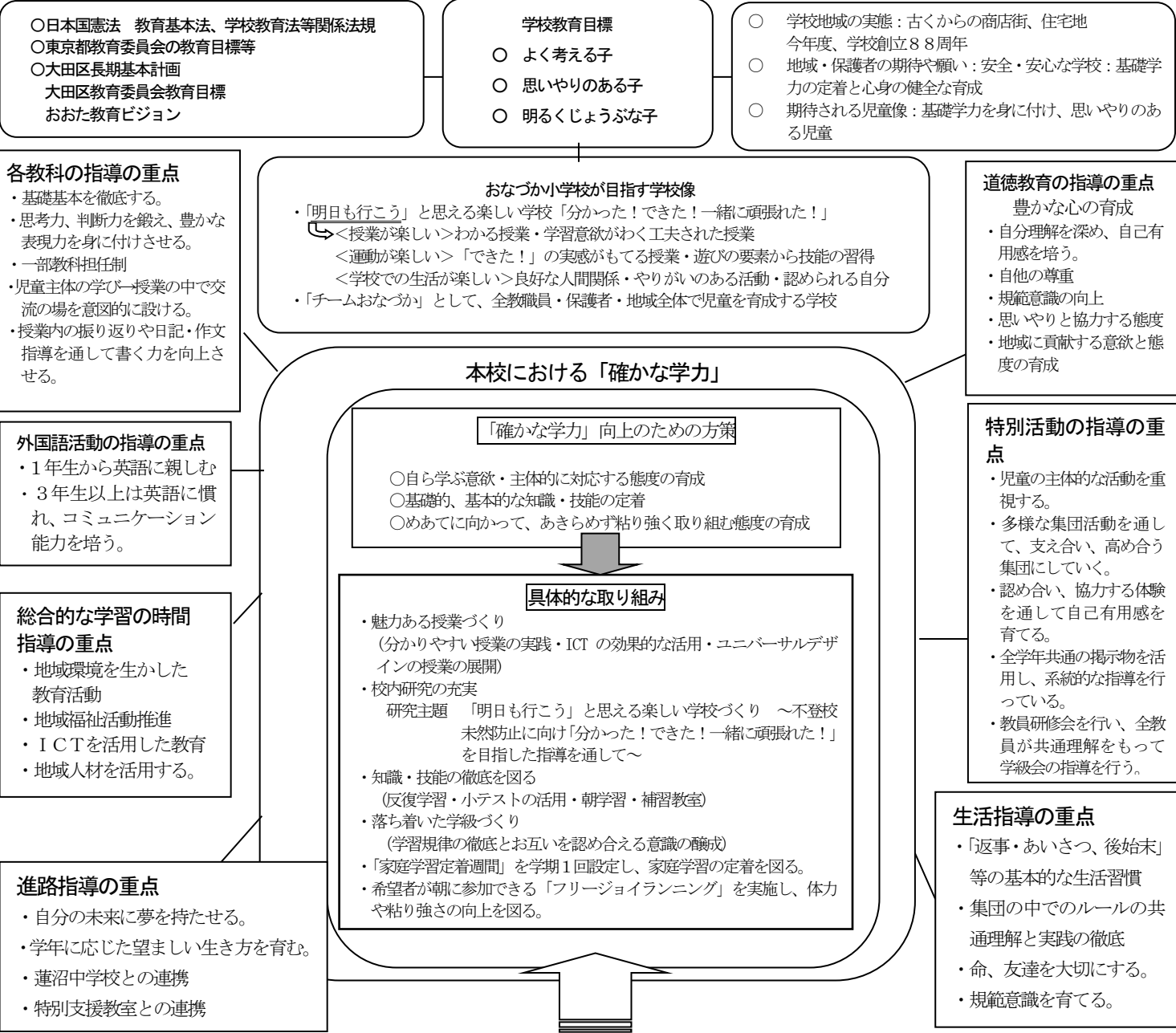


令和6年度 学力向上を図るための全体計画



本校の授業改善にむけた視点

指導内容・方法などの工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・体系的な学習活動や問題解決的な活動を重視し、学習への意欲や関心を高め、自ら考え、調べ、表現する力の育成を図るとともに言語活動の充実を図る。 ・交流など、児童相互の学び合いの場面を設定し、図や言葉で自分の考えを表現、説明させて、よりよい考えに気付かせる。 ・一部教科担任制により教材研究を深め、効率のよい指導を目指す。 ・単元末のワークテストを「教員の指導の成果」と捉え、60点以下の児童に補習を行い、80点を目指して再チャレンジさせる。 ・授業や単元ごとに身に付いた力について振り返りを書いたり、家庭学習で日記・作文に取り組んだりすることを通して、書く力の育成を図る。	・TT や少人数指導、教員の特性を生かした交換授業等を行い、子ども一人一人の能力や個性に応じた指導に努め、基礎基本の定着を図る。 ・問題解決のプロセスを重視し、一人一人の自力解決や児童相互の交流を通し、思考力・判断力・表現力を育てる。 ・学習効果測定や都の学力向上調査の検証を行い、授業改善推進プランを生かした実践を行う。	・校内研究を通して、児童の自己肯定感や自己有用感を育む。学級や学校内で自分の役割を意識させた活動を意図的・計画的に行う。(係活動・話し合い活動・委員会活動・縦割り活動など) ・教員のICT活用能力の向上を目指して、年に3回の校内研修と校内OJT研修の充実を図る。 ・特別支援教育の教員によるOJT研修の充実。配慮を必要とする児童への指導方法や対応方法を、通常の学級のユニバーサルデザインの授業に生かしていく。	・指導展開に応じた評価場面を設定する。 ・具体的評価目標の設定 ・学校公開のアンケートの記述式部分を反省し、検討した結果を職員会議で共有し、反省をもとに授業改善していく。 ・区などの学力調査結果を地域教育連絡協議会に報告し、学力向上のための意見を求めて、改善策を講じ、保護者に知らせる。	・学校支援地域本部「スクールサポート おなづか」を立ち上げ、地域の方の協力を得て活動を進めている。 (①バイオリン教室 ②夏わくイベント ③子ども見守り隊 ④お話の会など) ・「返事・あいさつ・後始末」、「早寝、早起き、朝ごはん」、「家庭学習定着週間」を設け、全教職員で取り組む。 ・民生児童委員会の方との情報交換会を設け、地域と連携し、児童の健全育成を図る。 ・子ども家庭支援センターとのケース会議の充実を図る。 ・PTA主催の行事を夏季休業期間に行い、地域や家庭とのつながりを深めている。